

◇博物館だより◇

山梨宝石博物館

Yamanashi Gem Museum

〒400-0016 山梨県甲府市武田一丁目 2-2

HP:<http://www.gemmuseum.jp>

TEL:055-252-3746

FAX:055-252-3745

E-mail: webmaster@gemmuseum.jp

1. 宝石の町の博物館概要

山梨県甲府市は富士山をはじめとする南アルプス連峰など日本を代表する山脈に囲まれた盆地にある。また、糸魚川・静岡構造線と柏崎・千葉構造線に挟まれたフォッサマグナ帯域にあって地質学上非常に興味深い位置にあり、日照時間が長く、気候風土共に恵まれた土地柄である。特産品としてワイン、ぶどうや桃などの果物、そして宝石が挙げられ、それぞれ日本一の生産量を誇る。武田信玄公を祭る武田神社など、史跡、旧跡が数多く点在し、年間の延べ観光客数は5635万人(平成15年山梨県調べ)にのぼる。この内、約半数が富士山を含む山梨県南部、半数が景勝地昇仙峡やハヶ岳を含む北部を訪れている。当館は、宝石貴金属製品国内出荷額の30%以上のシェアを占める宝石の町甲府に設立された国内唯一の宝石専門博物館である。宝石の正しい知識の普及と宝石貴金属産業のPR、ならびに地域振興を図ることを目的とし、1976年に開館した。施設は2階建て鉄筋コンクリート造りで甲府駅より徒歩8分の住宅街の一角にある。1号展示場から3号展示場まであり、2号館として即売場を併設している。原石、カット石、装身具、彫刻工芸品に分類された展示品総数は約3000点に及び、一般消費者が日ごろ目にするのできない原石に力点を置いている。また、宝石のジャングルジム(図1)では知名度の高い宝石を原石とカット石、それに指輪やペンダントなどのジュエリー製品とともに個々のガラスケースに展示し(図2)、どのような原石から美しい宝飾品が生まれるのかを理解することができる。当館では本物の宝石の美しさと種類の多さを知っていただくこと、そして、健全なジュエリー市場の育成と発展を願って、日々新しい情報と資料集めに努めている。

2. 宝石の町の歴史

18世紀に入って間もなくの江戸享保年間に、甲府市の北部御岳昇仙峡上にある金桜神社に五個の水晶丸玉が社宝として納められた。これは、神社に参拝する者が崩落跡から偶然に水晶を発見採取し、京都の玉造り職人に加工させたものである。研磨剤には奈良の金剛砂(石榴石の粉末)が使われたという。やがて御岳昇仙峡で京都玉造り職人の技術指導のもと、水晶玉造りが始まり、江戸天保時代には、その職人のほとんどが甲府中心部に移り住んだ。明治時代に入ると水晶の採掘が解禁され生産は急拡大し、海外に輸出されたが大正時代までには良質な国内産水晶は枯渇した。その後、海外に素材を求めた結果、ブラジル産原石の輸入に成功し甲府の研磨産業のさらなる発展に繋がった。第二次大戦後の駐留米国人を対象としたアクセサリー製造工業のように近代技術の導入によって、現在では研磨産業のみならず宝飾品全般にわたって製造が盛んになった。このように甲府の宝飾業界は時代の波に洗われながらも長い歴史と伝統を持ち、経済成長とともに、今や国内最大の宝石集散地として国際的に認知され、今後も、その役割を担って行くことを期待されているのである。

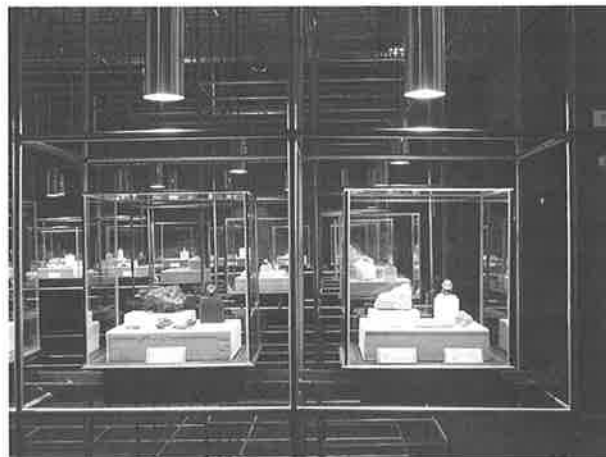


図1 宝石のジャングルジム

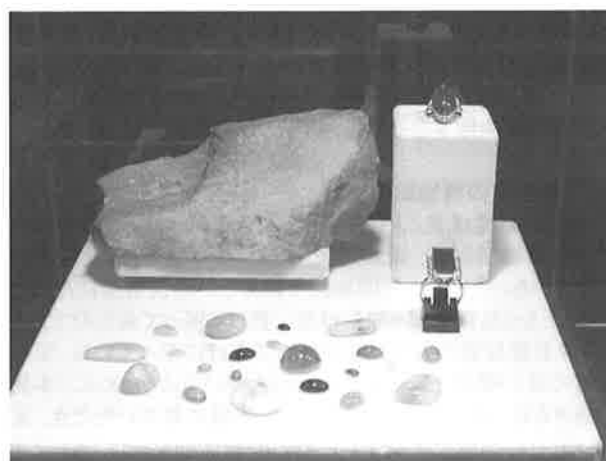


図2 原石、カット石、ジュエリーの三点セット



図3 1270kgの水晶原石

3. 展示品

1階の受付を済ませると、そこは館内全てを見渡すことができる1号展示場である。まず、目に入るのは1270kgsの白水晶原石である(図3)。これはブラジルからもたらされ、巨大であるばかりではなく水晶の結晶形、品質ともに美しい。水晶の原石は、人が何ら手を加えることなく鑑賞できる自然が作り出した美術品といえよう。マダガスカル産松茸水晶(図4)は胴の部分白水晶、頭部分アメジストに結晶したものでマグマの活動が途中から変化したことを示しており興味深い。カット石コレクション・コーナー(図5)では当館自慢の146カラットのアクアマリンなど市場では今後なかなか調達できないであろう高級宝石の一品が揃う。場内中央部に設置された宝石のジャングルジムは宇宙をイメージして設計されており、個々のガラスケースに納められた宝石は品質保護のため外部からの光源に照らされて、どのような原石から美しい製品が生まれるのかが一目で理解できる。器や置物などの伝統工芸品コーナーでは、故詫間正一氏の作品が目目をひく。優れた造形美と素材の良さをいかに引き出そうとしていたかが偲ばれる。ここに佇むと宝石の良さは獨創性やデザイン力よりも、素材がもつ美しさを表現する技術力であることが理解できるであろう。

2階に移動すると2号展示場内では宝石の成り立ちや歴史が学べる。日本産の特徴をもつ双晶水晶(図6)の標本は、正式には傾軸式双晶と呼ばれ2つの結晶軸が角度 $84^{\circ}33'$ で交わっているもので夫婦水晶とも呼ばれている。そして第二次大戦後間もなく宝石の町甲府で製作された水晶の彫刻アクセサリーやネックレスが並び、当時の技術水準の高さを認識することができる。

3号展示場はリングやペンダントなどの貴金属製品、貴石画、水晶研磨の各製造工程を各々パネル写真で説明している。また、中央部には日本列島をイメージした地図上に各県別に産出する鉱物標本をその産地名とともに展示している。

4. 宝石の町の博物館の使命

戦後の高度成長とともに発展してきたジュエリー市場はバブル経済崩壊以後、量より質の成熟した市場へと変化を求められている。当館は、民間施設ではあるが経済情勢に左右されることなく品質重視と独自性を一貫して保って来たので、多くの宝石愛好家の方々に支えられて今日に至っている。宝石の町の長い歴史と伝統を今後も引き継いでいくために、本物の輝きをもつ宝石を一人でも多くの皆様に見ていただき、正しい宝石の知識を普及するための啓蒙活動を続けていくことが当館の使命であると考えている。



図4 松茸水晶マダガスカル産

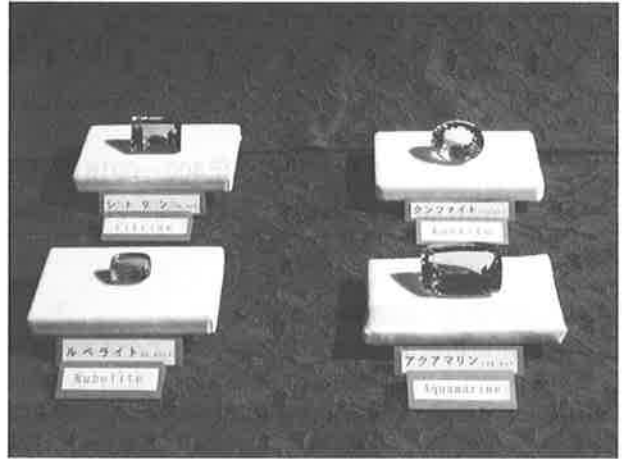


図5 カット石コレクション

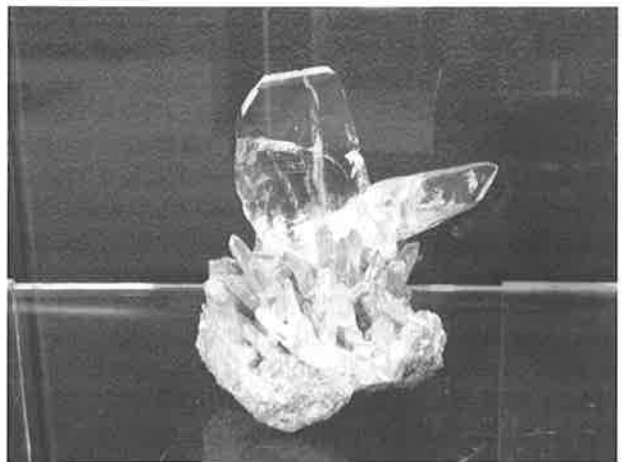


図6 双晶水晶

5. 博物館案内

所在地: 〒400-0016

山梨県甲府市武田一丁目 2-2

TEL:055-252-3746 FAX:055-252-3745

E-mail:webmuster@gemmuseum.jp

休館日: 3月～11月 毎週木曜日(祝日開館)

12月～翌年2月 毎週水、木曜日(祝日開館)

年末年始(お問い合わせください)

ゴールデンウィーク期間、8月中は無休

開館時間:3月～11月 9:30am～5:00pm

(入館受付は4:30pmまで)

12月～翌年2月 9:30am～4:30pm

(入館受付は4:00pmまで)

入館料: 大人(高校生以上) 400円

子供(小・中学生) 200円

(15名以上の団体2割引)

駐車場: 普通車 10台

バス2台以上の場合要予約

交通:JR 甲府駅北口より徒歩 8分

中央自動車道甲府昭和I・Cより車 15分

H P :http://www.gemmuseum.jp